

「一流になりなさい。それには、一流だと思ひ込むことだ」という本からです
本物を見続けなさい。そこに必ず真実が見えてくる。

ハイポニカを見て宿に向かいました。一株に 40 個ほど実をつけたメロンの小木。サトウキビも、常識を超えて伸びていました。

言葉を失ってはいましたが、不思議に元気が湧いてきました。「佐藤さんにとって、いまの環境はハイポニカのようなものではないですか？」

ハイポニカの原理を創った野澤重雄さんの言葉がうれしかったこともありました。

教育とは環境です。そしてその環境は、それまでの慣れ親しんだものとは違うものなのだと、トマトの木の前で聞いた言葉。確かに、船井先生と出会ってから、私はまったく想像もできなかった環境の只中にいました。「人間もね、その人の可能性が最大に引き出せる人生が一番の幸せではないですかね」

山中鑽さんの言葉に思わずうなずいていました。自分の可能性、それは自分で自ら信じることはできても、可能性のありようはわかりません。

師とは、その人間の可能性のありようを理解し、いつでも信じ、そして決して可能性を裏切ることのない生き方へと導く人を呼ぶのでしょうか。「教育とは英語で「Education」。これは、引き出すというラテン語の「Educe」からきているのだよ。教育とは君たちの可能性を引き出すことでしかない」強制するとか、型にはめることが教育ではないのだよ。そう教えられてきました。

長所を見つけるのは、その人の可能性の広がりを見出すということです。その可能性は、長所を伸ばし続けることでどんどん広がっていきます。教育とは長所の発見にある。その確信は、船井幸雄先生との出会い、教えのなかで生まれました。「本物を見続けなさい」ずいぶんと、その言葉を言われたように思います。本物とは、調和しています。そして向き合うほど、そのよさがわかります。分け隔てすることなく、いつも与え続ける存在です。

入社二年目、私の質問にわざわざ書いてくれたメモに記してあった「本物の条件」です。

船井先生と、百貨店業界の経営の神様、山中鑽さんとの会話のあいだにいた私は、なんと幸せな時間を過ごしていたのでしょうか。本物の人間と接していた幸福を、いまになって感じるのです。

教育は、可能性を引き出すことだとすると、その機会をどれだけつくり出すことができるか、それが人を育てるリーダーの資質です。

「本物を見るとね、必ず真実が見えるんだよ、佐藤君」山中さんの言葉に、そのとおりだねと、船井先生が応えます。種の可能性を、我々はよかれと思ってつぶしているのかもしれないね。私たちが日常見ているトマト。なんの疑問もなく、そんなものだと思っていたトマトは、可能性を奪われたトマトです。重圧、重力から解放し、最適な状況において突然爆発する可能性。「自由という環境が、社会に置きかえればハイポニカでしょう。規制、手助けが土でしょうか？」山中さんの言葉に、運転しながらそうだな、と思っていました。いまも時として、ハイポニカの木を思い出します。種の可能性のすごさ。その可能性は、すべての種、人間がもっているという実感。

いま思っている心地よさや常識が自らを制約していることもあるという危機感を思うのです。

山中さんも亡くなって、ずいぶんと時が経ちましたが、トマトの実のなる頃になるとあの素敵なひとときが思い出されてなりません。

人を育てるリーダーの資質とは何ですか？

()